

福島県の沿岸地域(浜通り)は東日本大震災の津波で港湾施設に大きな被害を受けたほか、漁業は東京電力福島第一原発の事故に伴う汚染水問題によって風評被害を受けています。そこで、福島の漁業の現状について知るため、相馬市にある相馬双葉漁業協同組合を見学し、組合の参事・渡部^{わたのべ}さんからお話を聞きました。



相馬双葉漁協の競り場



漁協での学習会

福島の漁業復興への取組み

福島県では原発事故の影響により沿岸での漁業を自粛せざるを得ない状況ですが、*試験操業を通して出荷先での評価を調査したり、福島の魚を流通させることで安全性をアピールしています。出荷にあたっては、国の一般食品の放射性物質の安全基準である100bq(ベクレル)/kgの半分以下「50bq」という独自の安全基準を定めています。毎週約50~100検体前後の魚介類でモニタリング検査を継続し、「2017年以降は99%以上が放射性物質を不検出」と数字の面で安全を訴えています。今でも福島産の水産物は安く買い叩かれ、なかなか状況が改善されない現状に歯がゆい思いをされていました。

*モニタリング調査によって安全が確認された魚介類の小規模な操業と販売を行い、流通先の確保と出荷先での評価を調査するために、試験的に行っている漁業。

原発事故がなければ起こらなかった問題

相馬双葉漁協は7つの漁協が合併した組合です。東京電力福島第一原発周辺を含む福島県沿岸の北半分を占める操業海域を持ち、年間170種類以上の魚介類が水揚げされていました。

震災後は、被災者という立場が同じでも、被害の程度によって特定の組合員を身びいきしていると疑われるなど、原発事故がなければ起こることもなかった問題の対応に大変苦労されたそうです。また、原発事故後、漁業者の高齢化と後継者不足が一層進み、漁協の存続にかかわる問題もあるとおっしゃっていました。



相馬双葉漁協の渡部さん

全国にネットワークを持つ生協さんの強みを生かして、福島の水産物が安全で美味しいことを広く発信してほしいです。



学習会后、相馬地区・双葉地区の近海で取れた水産物を販売している直売所で買いものを楽しみました。

ツアーを終えて参加者の感想

大量に積まれた除染廃棄物や、帰還困難区域にある住宅や店舗の入り口を塞ぐように設置された柵を目のあたりにして、原発事故がもたらした危害の凄まじさを痛感しました。

福島の魚がしっかり検査され安心して購入できることが分かりました。今後も福島の海産物を積極的に購入して、復興の支援に繋がればと思います。

コープふくしま、相馬双葉漁協の方から福島の復興の取り組みや現状について分かりやすく説明していただけるととても良かったです。



2020年度も
3つの柱で福島を
応援していきます。

富山県生協の東日本復興支援実行委員会は、2013年から、震災による被害だけでなく原発事故に起因する問題を抱える福島県の復興を支援してきました。2020年度も、

1. 県内生協との連携 (福島の子ども保養プロジェクト)
 2. 被災地の視察と交流 (福島復興支援視察交流ツアー)
 3. 知らせる取り組み (福島の今を知る報告・学習会)
- の3つの柱を軸に、福島を応援していきます。